

食べて笑顔になれる バナナを目指す

代表者 上田 文司さん

ばな菜ファーム[NPO法人伊賀の友]さん

伊賀市湯舟でバナナや葉物野菜を栽培し、とれたて市ひざっこに出荷しています。(出荷者名「合同会社BU」)チンゲンサイやレタス、ルッコラなどの葉物野菜は水耕栽培で生産しています。また、障がいのある方が生きがいややりがいを持って働ける機会を提供し農産物の栽培・出荷作業を通じて農福連携に取り組んでいます。

バナナ栽培を始めたきっかけは？

もともと水耕栽培を営む伊賀市湯舟の奥保規さんの農園でNPO法人伊賀の友の利用者の皆さんが作業を手伝っていました。コロナ禍で売り上げが減少した時、「こんな状況でも子どもたちに笑顔になつてもらえるものを作ろう」とバナナの栽培を提案しました。バナナの栽培は初めてだったので、インターネットでホームページなどを調べて県外の農家と交流し、栽培方法や病害虫の予防などを教えてもらいました。

苗は岡山県にある施設でマイナス60度の環境下で育て、順応性を最大限に引き出したものを選びました。厳しい環境を乗り越えた力強いバナナを食べて、色々なことを乗り越え幸せを感じてほしいという願いを込めて、愛情を注いで作っています。

栽培しているバナナの特徴は？

一般的にスーパーマーケットで販売されているバナナとは違い、グロスマシエル種という希少な品種です。さっぱりした甘さの爽やかな味が特徴で、幸福感やリラックス効果が期待できるとされるトリプトファンという栄養素がたっぷり含まれています。

工夫していることは？

保温や防草、作業のしやすい圃場作りのために、水耕栽培で不要になったマットをバナナのハウスの通路に敷いています。

また、除草や葉の状態の確認、虫を取り除くなどの作業は、障がいのある方が手作業で丁寧に行ってくれています。特に除草作業に関してはこまめに取り組んでくれているので、圃場にはほとんど雑草が生えておらず、綺麗な状態が続いています。

今後の目標は？

規模を拡大し、少しでも多くの方に知ってもらえるように販売のネットワークを広げ、「忍者バナナ」の名前をもっと浸透させていきたいです。

消費者の皆さまへ一言

初めての試みで不安もありましたが、無事に収穫でき、やりがいを持って続けることができているのは皆さんの支えのおかげです。安全・安心を念頭に置いて取り組んでいますので、ぜひ一度手に取ってスーパーマーケットのバナナと食べ比べてみてください。

